



曾祖父から代々宮司の家系で、自然とこの道に。高校は、英語が好きでアメリカ留学していたこともある松井さん。



ろっくん

「ここは、日本で唯一の気象神社。境内の下駄のかたちの絵馬には、さまざまな願いが込められていた。結婚式、ハワイ旅行、スポーツ大会……きつと晴れますように！ 宮司の松井美加子さんによると、お願いは具体的なほうがないと、日付、場所、時間をちゃんと書かないと神様もやっぱり困るらしい。

「13時に結婚式だから晴れてほしいと書いたら、その時間だけ晴れたなんていう嘘みたいなホントの話もあるんですよ。」

法人・団体を対象にご祈祷もしている。例えば、横浜DeNAベイスターズ。本拠地・横浜スタジアムには屋根がないのだ。日刊スポーツ新聞社は、お参りするようになって、主催する神宮外苑花火大会が雨に降られることが減ったらしい。晴れを願うだけではない。今年は、大阪から使い捨てカイロのメーカーが冬の寒い冬を、と祈りに来たそうだ。社務所に鎮座する大きなてらてる坊主「ろっくん」は、下着会社が奉納したものだ。よくよく見てみるとなか特殊な布でできている……熱中症を防ぐために作られたブラジャーの素材らしい。天候はまわりわるる企業にとっては「聖地」のような神社なのだ。

明日天気になーれ

気象神社

高円寺南4-44-19 (JR南口・氷川神社内)
☎ 03-3314-4147
4~9月開門 17:30 / 10月~3月開門 17:00

ていた。戦後、移転先を探る中で、氷川神社が受け入れることになったそうだ。どんな人にも関係のある「天気」にまつわる神社だから「日本で一番身近な神社でありたい」とホームページにある。授与品(お守りや絵馬、おみくじ)もその思いに「役買っている。「なるべくめずらしいとかかわいとか、持ちやすいもの」と松井さんが考えて、1年に1度は新しい種類をつくっているそうだ。てらてる坊主の形の「照々みくじ」や下駄の形の「好天守」……最近では海外からも参拝客が来て、購入していく。

高円寺から、世界の天気を見ている神様がいます。そう思うと、すこし不思議で、誇らしい。



御祭神は、八意思兼命さま。太陽神・天照大御神が天の岩戸に隠れて世の中が暗闇になったとき、連れ戻す知恵をしほり、ふたたび世界に「太陽」を取り戻し、世の中を救うことに成功した。このことから「気象の神様」と祀られるようになったとも言われている。晴「雲二層」「雪」「雷」「風」「霧」という8つ「気象条件」を司る。もとは、現在・馬橋公園となっている気象研究所内に祀られていた。

